

公の施設の指定管理者における業務状況評価

令和4年11月22日

施設名	美術館	所管課	文化生活スポーツ部文化国際課
-----	-----	-----	----------------

1 施設の概要

指定管理者名	(公財)高知県文化財団	指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日
施設所在地	高知市高須353番地2		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・美術品及び美術に関する資料の収集、保管及び展示 ・美術に関する専門的な調査研究 ・美術に関する講演会、講習会、研究会等の教育普及活動 ・美術品等の展示のための県民ギャラリーの提供 ・音楽、演劇等の鑑賞のためのホールの提供 ・上記のほか、美術館の設置の目的を達成するために必要な業務 		
施設内容	<p><建物> 延べ床面積:11,723㎡ 鉄骨鉄筋コンクリート造地上3階建 <土地> 15,912㎡ 駐車場 144台 <主要施設> 常設展示室、企画展示室、石元泰博展示室、県民ギャラリー、講義室、創作室、ミュージアムショップ、レストラン、美術館ホール(399席)など <開館時間> 午前9時～午後5時(ホール、リハーサル室及び楽屋は午前9時～午後10時) <休館日> 12月27日～1月1日 <主な料金> 常設展 一般370円・大学生260円 ※高校生以下、高知県長寿手帳(65歳以上)、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳を所持する者と介護又は介助者1名、高知市長寿手帳を所持する者は無料 施設利用料 県民ギャラリー22,240円(1日)、企画展示室55,630円(1日)ホール37,770～96,200円(1日)</p>		
職員体制	常勤職員: 13人	契約職員: 13人	非常勤: 1人 合計: 27人

※職員数は令和4年4月1日現在

2 収支の状況

単位:千円

		令和2年度(決算)	令和3年度(決算)	令和4年度(予算)
収入	県支出金	319,264	316,171	331,683
	事業収入	28,501	37,228	58,902
	その他	67,975	37,053	13,124
	収入計	415,740	390,452	403,709
支出	事業費	415,740	393,146	403,709
	(うち人件費)	(123,470)	(123,192)	(126,034)
	その他	0	0	0
	支出計	415,740	393,146	403,709
収支差額(a)-(b)		0	-2,694	0

3 利用状況

		令和2年度(実績)		令和3年度(実績)		前年度比較
① 年間利用者数 合計 (単位:人)	常設展	4,922人	常設展	5,989人		+ 1,067人
	企画展	27,451人	企画展	19,624人		- 7,827人
	美術館ホール	5,344人	美術館ホール	2,605人		- 2,739人
	小計	37,717人	小計	28,218人		- 9,499人
	貸館	22,846人	貸館	18,139人		- 4,707人
	貸館(ホール)	12,168人	貸館(ホール)	19,567人		+ 7,399人
	県民ギャラリー	5,208人	県民ギャラリー	69,896人		+ 64,688人
	小計	40,222人	小計	107,602人		+ 67,380人
	合計	77,939人	合計	135,820人		+ 57,881人
<p><利用実績> ・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、観覧者目標を下回った(目標人数:50,000人、達成率:約51.2%(貸館分等を除く))。</p>						

<p>② 利用者意見等の反映</p>	<p>○ 利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等)</p> <p>① 展示会は企画展及び関連イベントごと(7回、回収1,299件、回収率6.6%)、ホール事業は主催事業ごと(8催事、回収1,143件、回収率41.1%)に利用者満足度等のアンケートを実施した。</p> <p>② 利用者の声を恒常的に聞く据置型のアンケートはコロナ対策のため休止中。</p> <p>○ 利用者意見等を踏まえた対策</p> <p>・利用者からの意見は、即時、館内で共有し、必要なものは速やかに改善させている。</p> <p><事例> コロナ対策(手指消毒ポンプを非接触方式に変更、ホール客席に間隔確保のための張り紙 等) シルバー用の手押し車の増設、駐輪場の位置を掲示</p> <p>○ その他</p>
<p>③ その他特記事項</p>	

優れた芸術の魅力を伝えるとともに、独自のコレクションを後世に伝える

要求水準－収集・保存

収集方針に基づき資料を収集し、適切な保存・管理を行う

評価項目

- (1) 本県出身の作家を中心として、特色ある資料の充実に努める
- (2) 資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・収集方針に則り、本県ゆかりの作家の代表的作品を数多く収集することができている。 ・収蔵庫の保存環境保全に努め、適切な方法で収蔵資料を保管するとともに防犯セキュリティ面でも収蔵庫、展示室等の安全を保っているほか、資料整理や修復を継続して実施している。 ・整理した石元泰博氏の写真作品の画像をアート情報コーナーのパソコン端末やウェブサイトで公開したり、企画展の関連書籍、収蔵作家に関する図録・書籍の特集コーナーをアート情報コーナーに設けるなど、収集した資料に来館者等が触れ、作品への知識や理解を深めることができるよう取り組んでいることが認められる。

要求水準－調査・研究

収蔵資料の調査研究を進め、その成果を公開する

評価項目

- (1) 職員の専門性の向上を図るとともに、調査研究の成果を、資料の公開や図録・記録集の作成等により、広く発信する
- (2) 石元泰博コレクションの調査・研究を進めるとともに、作品の情報を発信し、適切な利活用を図る

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により活動が制限される中で、県内外の感染状況に柔軟に対応し、積極的な情報発信を継続的に実施している。 ・石元泰博フォトセンターでは、前年度開催した「生誕100年 石元泰博写真展」の成果を引き継ぎつつ、活発な調査研究、保存管理、教育普及活動を行った。また、コレクション作品の調査研究、データベースにかかる整備、作品の借用申請等を通じた国内外の美術館等と連携や関係性の構築など、情報発信と利活用促進の活動を継続して実施できている。

要求水準－展示・公開

質の高い、優れた芸術に触れる機会を提供し、芸術や文化に対する関心を深める

評価項目

- (1) シャガール、石元泰博の二大コレクションの展示など、質の高い魅力的な常設展・企画展を開催し、5年間で21万人以上の観覧者を目指す
- (2) ホールの特性を生かした事業を実施し、美術館の魅力向上に努める
- (3) 講演会やギャラリートークの実施など、来館者の芸術や文化への理解を深めるためのサービスを充実させる

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none">・企画展、コレクション展などは、館の二大コレクションを広く発信するものや、本県出身作家である奥谷博の作品を紹介するものなど、多彩な構成となっている。また、感染症対策を講じた上で、学芸員や有識者によるイベントを実施することで、展覧会への理解を深めてもらうことができた。・文化庁の補助金 3,000 万円を活用して、高知アートキャラバン事業を実施した。これにより、コロナ禍で活動が停滞している県内・国内の芸術関係者を支えるとともに、鑑賞機会を失った多くの県民に感動を与えることができた。

要求水準－教育・普及

様々な年代を対象とした教育・普及活動を行う

評価項目

- (1) 学校や関係機関と連携を図り、子どもたちの芸術や文化に触れる機会を充実させる
- (2) 幅広い年代の方に、芸術や文化に親しむ機会を提供する

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none">・スクールプログラムは新型コロナウイルス感染症拡大のため実施できなかったが、学校の団体利用等において、各学校の児童生徒のニーズに合うよう丁寧な打ち合わせを行い、学校等との連絡を密にして安全な実施に努め、子どもたちが芸術や文化に触れる機会を継続的に創出している。・企画展関連のワークショップの開催や、お正月イベントにおける本川神楽の上演など、様々なイベントを開催し、来館者層の拡充に努めている。

要求水準－広報

評価項目

美術館活動に関する戦略的な情報発信により、県内外に館の魅力を広める

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・事業ごとに広報計画を立て、展覧会の特徴やターゲットに適した媒体を用いた、計画的、効果的な広報活動を展開している。 ・Facebook や Twitter、インスタグラムで有料広告を打つなど、情報伝達の早い SNS を効果的に活用し、きめ細やかな情報発信を実施している。 ・過去に高知新聞に掲載された作家の連載記事について、同紙ウェブサイトでの再掲載を依頼するなど、マスコミ等との連携を行い、コロナ禍において県内観覧者数を増加させるための広報活動の工夫ができています。また、インスタグラムで有料広告を打つなど、コロナ禍においても新しい広報の戦略を展開できています。

要求水準－その他

評価項目

県内外の他の博物館等と連携した事業の充実により、県民サービスの向上を図る

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の美術館・博物館と関わりながら調査研究を行うことで、展覧会の企画内容を充実させるとともに、今後の活動に活かせるネットワークをさらに広げることができた。 ・ホール事業では、文化庁のアートキャラバンを活用することで、地方単独では上演が困難な質の高い公演を行うとともに、市町村やNPOなどが行う地域の文化芸術活動に対して支援することができた。

要求水準－施設管理

施設及び設備の適切な保守管理をとおして、故障や事故のない運営を行う

評価項目

(1)適切な管理運営の確保	社会的責任	・法令等の遵守 ・個人情報、情報公開の状況
	建物や設備の管理	・点検、修繕の実績 ・業務委託の状況
	危機管理	・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成 ・職員研修

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員や委託先などに関係法令が徹底されており、各法令に基づいて、適正な管理運営体制がとられている。 ・新型コロナウイルス感染症対策において、人数制限や利用者情報の収集などガイドラインに沿って取り組み、施設内での感染拡大防止に努めている。

評価項目	
(2) 利用者サービスの維持向上	・利用者の意見の反映 自己点検、評価の状況 ・事故、クレームへの対応 ・職員の専門性の向上 ・研修の実施状況 ・その他サービス向上の取り組み

評価	理由
B	・アンケートの要望について、可能な範囲で要望に対応する努力をしている。 ・サービス部会を開催し、サービスの向上を図るとともに、職員の専門性やスキルアップを図るため外部研修等も活用しながら積極的に取り組んでいる。

評価項目		
(3) 利用実績	利用実績の状況	・利用状況の分析

評価	理由
B	・新型コロナウイルス感染症拡大による来館者数の減は見られたが、ガイドラインに沿った対策を徹底して行うとともに、空調設備の改修を行い、来館者が安心して利用できる環境整備に努めた。

評価項目		
(4) 収支の状況	経営努力	・収入増加の取り組み ・経費削減の取り組み

評価	理由
B	・外部資金の積極的な導入など収入源の多様化、安定化を図っており、経費削減の努力も認められるが、新型コロナウイルス感染症の影響等により収入減となった。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展や公演と連動した講演会、ワークショップなどの関連イベントの開催により、多角的、多面的な理解を促進する取組が行われている。 ・外部資金の積極的な導入により、県内の多彩な舞台芸術を共催し、地域の芸術文化活動の発展に貢献している。 ・新型コロナウイルス感染症拡大により、従来の接触型活動や直接的な来館者は減少しているが、ライブ配信やアーカイブの公開、SNSの積極的な活用などにより、新たな顧客の開拓に努めている。 ・新聞社などのマスメディアとも連携し、展覧会やホール事業について効果的な情報発信ができています。 <p>以上のことから、要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がなされたものと認められる。</p>

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する。